平成27年6月16日

江戸川区　計画相談支援

初心者フォローアップ研修（次第）

**１　前半**　　　　　　　　　　　　　スクール形式　80分

1. アンケートへの回答　20分
2. 確認ドリル

ア　各サービス内容の可否判断　30分

イ　相談支援の手続き　20分

（３）質疑応答　10分

**２　後半**　　　　　　　　　　　　グループワーク　40分

・グループ分けして、テーブルごとにディスカッション。

・職員は、進行役+書記（+質問対応は少しだけ）。

・あまり話さない人が出ないよう、お互いに話を振っていきましょう。

（１）自己紹介（事業所名、名前のみ！）　　3分

（２）テーマ選定　　　　　　　　　　　　　3分

①社会資源の探し方

②事業所のスーパービジョン

③利用者の意思の汲み取り方

④その他、相談支援を始めてみて困っていること、大変なこと

（３）ディスカッション　　　　　　　　　　20分

（４）各グループまとめ　　　　　　　　　　3分

（５）全体発表　　　　　　　　　　　　　　10分

　　　※発表は、できなければ後日メールで共有

【配布資料】

（１）老計10号(居宅介護等事業の運営について)

（２）サービス内容判断基準表

（３）移動支援ガイドライン

平成27年6月16日

障害者福祉課事業者調整係

6/16　初心者フォローアップ研修　申込書アンケート（まとめ）

1.各窓口の対応の差について

　　先日の江相連でも、窓口によって答え（許容範囲）が違う、という話が出ました。統一すると弊害が出るのかもしれませんが、あっちではOKだったのにこっちではNGというようなことが起きるのは心配です。例えば、今後、三障害共通のサービスについて、他障害分野の利用方法を参考にした計画に乗せていくことがあるかもしれません。そのときに同じようなことが起こると、利用者側にとって不平等が起こるのではないか…と。サービス提供のいわゆる特例やグレーゾーンに関わることは、障害（窓口）の垣根を超えることは難しいですか。

2.各項目（意向、方針、目標、概要、生活歴など）にどのような内容を記入すればよいかわからない。それぞれの項の違いを明確に把握したい。

3.現任研修を受ける年をもう一度詳しく知りたい。

4.利用者、関係事業所へ渡す（コピー）書類をもう一度確認しておきたい。

5.居宅介護事業所の実績やヘルパーの人数、男女比など一覧にまとめられると助かります（情報集約）。利用者も選んで問合せをすることが手間でサービス利用につながらないようだ。北区の取組み（居宅介護事業所調査報告書）のようなものがあればいいと思う。

　経験を積めば相談支援専門員の力量の範囲なのでしょうが、何件も問合せしていると居宅介護事業所側も負担ではないかと思いました。

6.サービス等利用計画案のサインの記入方法が事業所によって違っており、記入場所も違うので、どうしたものかと困っています。

7.イレギュラーな流れ（更新、計画変更、モニタリングが決められた月にできなかった等）になったときに必要なことや注意すべき点等。

8.入浴サービスについてなど江戸川区独自のルールについて教えてほしい。

9.実際にサービス支給がカットになったケースについて具体的に教えてほしい。

10.サービス量が利用者に適したものか。（使いにくい部分もあり）教えてほしいのは制限する理由について（特に居宅介護の身体介護サービス）。

11.相談支援事業所の支給決定期間及びモニタリング該当月についての再度確認が出来ると助かります。

新規で計画を立てた際に例えば半年後にモニタリングがあったとして、その一か月前に計画の変更があった際はモニタリングを元々予定していた該当月は無効なのか・・・新たな受給者証に新たなモニタリング該当月を記載していくのか・・・モニタリングの該当になる具体的な内容を決めて頂けると助かります。毎回地区担当に説明同意するやり方を今後も取っていくのか・・・であったとしても、該当する要件を教えて頂けると事業所も根拠を持って地区担当に相談できます。曖昧で答えに難しいと感じますが、仕事として続けるにあたり、ルールが分からないと困ると思います。

また、以前より障害種別によりルールが違うという事を時折聞いています

・・・区は違いを把握できているのでしょうか。

12.書類作成のことだけでなく、ご利用者様から話を聞く際のコツのようなものがあれば、教えていただきたい。特に児童の担当者の方の話を聞きたい。

13.介護保険と障害福祉サービスの併用ついて勉強したい。

　6月に62歳の利用者の計画を作成する予定で、65歳を前にして介護保険のことも考えながら取り掛かるべきと考えている。

14.実際にこういうサービスを利用している人は、こんな形でプランを作っていくという様な事例をいくつか見たい。

　基本情報があって、その人のプランはどういうふうに作っていくかをグループワークなどで各自作って評価、検討し合う、などの研修を受けたい。

15.江相連と区ワーカーの情報共有について

　　東京都の初任者研修で、困難事例は自立支援協議会や部会を有効活用しましょう、という話がありました。今のところ、区は部会を設置する予定はないということですが、こうした事例を放置せず取り組むには、江相連のような相談支援専門員だけの事例検討・情報共有だけでは埒が明かないこともあると思います。部会設置が難しいとするなら、せめて（サービス支給など現実的なことは置いておいて）区のワーカーも参加した事例検討をする場などが必要になってくると思うのですが、難しいと思いますか。

16.障害福祉サービスを利用していない方のサービス等利用計画について

　・今後、利用する可能性のあるサービスを取り入れる。

　・サービス以外（学習塾等）のものがあれば取り入れる。

　・サービスの利用がなくてもモニタリングは実施する。

　と区の担当者に確認しましたが、サービスの利用がないと担当者会議の開催は難しいかと思われますが、担当者会議を行わず、サービス等利用計画を提出してよいですか？

17.給付されているサービスで、実際使用していないものの、計画への位置づけの方法。

18.就労移行事業所、就労継続支援事業所ＡＢ、放課後等デイサービス、介護事業所等ＨＰや区からの情報だけではわからない。それぞれの特徴をもっと知りたいです。

19.利用される方に少しでもあった事業所を見つけるための、それぞれの事業所の方のお話を聞いてみたいです。

20.相談支援専門員としての業務の範囲

21.個々のニーズに応じたサービス提供、対応の具体的な事例が知りたい。

**【グループワークでのテーマ】**

22.社会資源（フォーマル、インフォーマル）をどのように探しているか知りたい。

23.各事業所で、計画内容のスーパーヴィジョンをどのように行っているか知りたい。

24.自分の思いを上手く伝えてられない人に対する計画作成の難しさを感じている。もちろん、保護者等、代弁者からの聴き取りになるとは思いますが、保護者の中にも「全部私が決めていいのか不安になることがある。本人は本当に満足しているのでしょうか？」という話をする方がいた。

25.6月から立ち上げるため、実際に計画相談をやっている人の困っていることや大変なことを共有できればと思います。